

## (5) 本研究における具体的な手立て

本研究では、創造活動の中で、児童生徒が常に形や色(色彩)を意識して学習に取り組むようにすることが大切だと考えています。そのための具体的な手立てを下記のようにしました。

## ア 形や色(色彩)を捉えさせるための電子黒板、黒板、掲示物等の活用

児童生徒が常に形や色(色彩)を意識できるよう、板書等を工夫しました。特に電子黒板は、色彩を原色に近い色で再現できる利点と学習活動の場面に合わせた提示を容易にする利点があります。電子黒板で写真や絵などを提示することは、児童生徒が形や色(色彩)を捉えるために有効だと考えます。

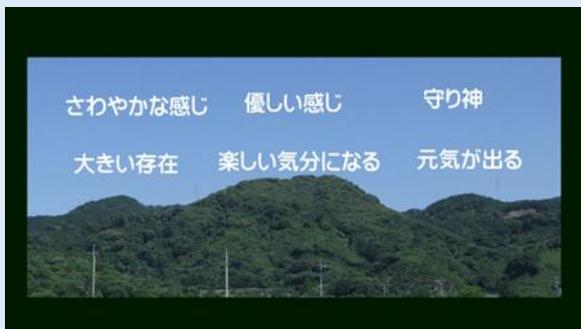
## (ア) 小学校

電子黒板と黒板を目的に応じて使い分けるようにしました。

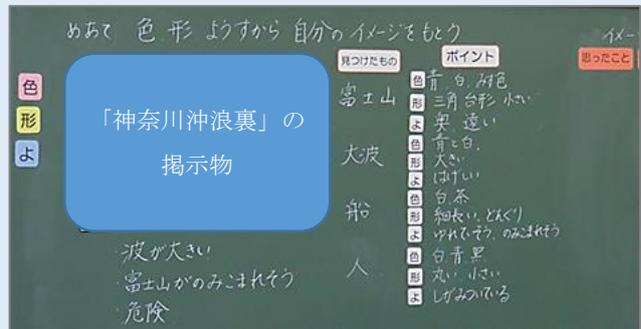
電子黒板は、主に児童がイメージしやすい写真や授業で使う美術作品の提示に使用しました。また、ワークシートの使い方や、交流の仕方を提示する際にも有効です。

黒板には、その時間を通して視点としておいてほしい形や色などの造形的な特徴、作品に描いてあるもの、児童の発言などを残すようにしました。黒板に残した造形的な特徴は、児童の思いを大切にするとともに、それを共有することで、より客観的に造形的な特徴を捉えられるようになっていき、中学校美術科へとつなげることができると考えます。

児童がイメージをもちやすい写真や絵を電子黒板で提示し(資料1)、そのイメージから児童が考えた造形的な特徴である形や色、様子は黒板に文字として残すことで(資料2)、それを根拠に感じたことや思ったことをワークシートに書く活動につなげていきます。



資料1 電子黒板の使用例  
(イメージをもたせるための写真)



資料2 黒板の使用例  
(〔共通事項〕に関わる板書)

## (イ) 中学校

中学校では、形や色彩の学習及び活動内容の説明等に電子黒板を利用しました。生徒に形や色彩の性質及び感情に関わる事例を提示して、既習の内容等を振り返らせました(次頁資料3、4)。

「〔共通事項〕ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること」の「理解する」とは、「単に知識として理解するのではなく、知識なども活用しながら、生徒が自分の感じ方で形や色彩をとらえ、自分としての考え方をもつ」<sup>(4)</sup>と明記されています。例えば、形を強調させるための配色方法の説明では、知識で理解させるだけでなく、配色方法を比較させる図を提示することで、学習に活用させる手立てにすることができます(次頁資料3)。

また、黒板には、創造活動で押さえる形や色彩のポイントと制作の手順及び時間配分等を提示し、生徒がそれらを意識して活動できるようにしました(次頁資料5)。

**明度と彩度による配色**

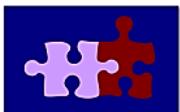
同一トーンの配色  
明度(彩度)が同じ色



類似トーンの配色  
明度(彩度)が似ている色



対照トーンの配色  
明度(彩度)が  
高い色と低い色



形が分かりやすい  
配色は？

資料3 電子黒板の使用例  
(色彩の概要の説明)

**色の感情**

寒暖の感じ  
色相と関係が深い



軽重の感じ  
明度と関係が深い



強弱の感じ  
彩度と関係が深い



資料4 電子黒板の使用例  
(〔共通事項〕の説明)

**自分の街をデザインしよう！**

学習のねらい 誰にでも分かる  
マーク(ピクトグラム)にしよう！

今日の学習

2	アイデアスケッチ① (ラフスケッチ)	(1/3)	(2/3)
3	アイデアスケッチ② (検討)	(2/3)	
4	アイデアスケッチ③ (下書き)	(2/3)	

1	学習の振り返り	10分
2	アイデアスケッチの確認	10分
3	デザインの検討 グループで工夫点や改善点の話し合い	16分
4	デザインの見直し	10分
5	今日の学習の振り返り	4分

**アイデアスケッチのポイント**

- 統一感
  - グループで共通する形「街」をイメージする形
  - 使用する場所を考えて、「誰にでも分かる」デザイン
- 形
  - 特徴をとらえ、単純化、強調をして最小限の情報
  - 作品の制作を考えた下書き
- 色彩
  - デザインするモノの特徴からイメージ
  - 「見やすさ」を考えた配色  
対照トーンの配色・白、黒を含む2色～3色
- 線を太く表現
- 色の面積と配置
- 色は自分のイメージ
- 「白」は画用紙の白

「街」のイメージ(グループ)

自慢のもの(個人)

資料5 黒板の使用例  
(活動で押さえるポイント)

[上段(奥)]  
制作の手順及び時間配  
分等1時間の見通しを  
もたせるスペース

[下段(手前)]  
活動で押さえておきた  
いポイント等を提示す  
るスペース

(4) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説美術編』 平成 20 年 9 月 日本文教出版 p. 26

## イ 形や色(色彩)を意識したワークシートの工夫

児童生徒が形や色(色彩)を意識して感じたり、思ったり、考えたりした足跡が見えるように、ワークシートを工夫することが大切だと考えます。個人のポートフォリオとしてワークシートを蓄積し、児童生徒がそれを繰り返し見ることで、学習したことが次の学習にもつながっていきます(次頁資料6)。また、児童生徒が何を感じ、何を考えているのかなどを把握することができ、評価の資料として有効だと考えます。

小学校図画工作科では、児童が自分の感覚や活動を通して捉えた形や色を基に自分のイメージをもてるように作成しました。中学校美術科では、形や色彩などの性質やそれらがもたらす感情などを理解したり、形や色彩の特徴を基に、対象のイメージを捉えたりすることができるように、ワークシートを指導内容に応じて作成しました。

また、それらを各時間の学習活動で繰り返し見ることができるポートフォリオを作成しました。

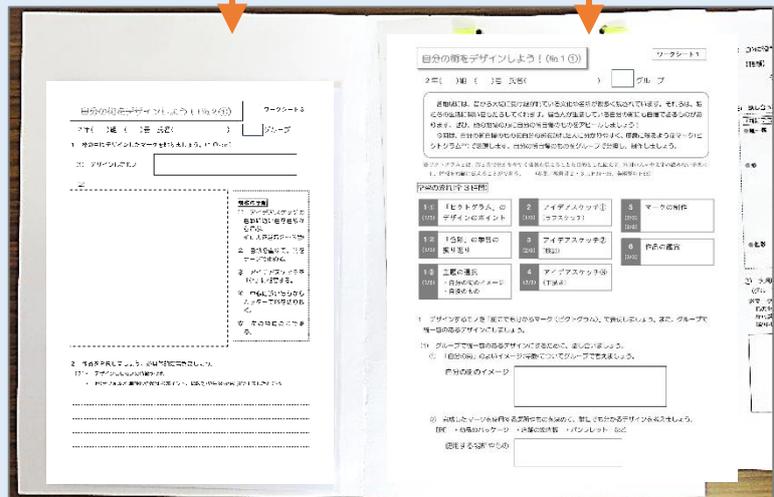
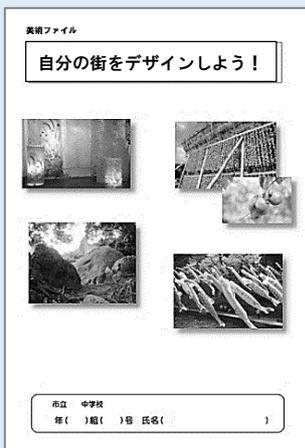
小学校で使用したポートフォリオ



作品や資料等の  
保管用ポケット

ワークシートの  
保管用スペース

中学校で使用したポートフォリオ



資料 6 学習活動を振り返るためのポートフォリオ

(ア) 小学校

本研究のワークシートの工夫は次の 2 点です(次頁資料 7)。

- ① 児童が作品を鑑賞して自分の感じたことや思ったことを書く活動において、形や色などを根拠にして考えることができるようにしました。見つけたものとは、作品に描かれているものです。ポイントの欄には描かれているものの造形的な特徴である形や色、様子を書いていきます。大きさや数などもここに書きます。それらの複数の形や色、様子から感じたことや思ったことをワークシートに書いていくようにしました。そうすることで、自分の考えは、何を根拠にしているのかが明確になります。
- ② 児童の文章力だけを評価しないための工夫として、形や色、様子のうち、何を根拠に感じ

たり考えたりしたかということが分かるよう、ポイントの欄から矢印を引かせるようにしました。その際、なるべく複数の造形的な特徴を根拠に自分の感じたことや思ったことが描けるよう、数の目安も伝えるようにします。ワークシートのポイントの欄からの矢印は、感じたことや思ったことを文章でうまく表現できなくても児童がどのような造形的な特徴を捉えているのかが分かり、そこから教師との対話で児童がもつイメージを引き出すことができます。

以上のようにワークシートを工夫することで児童が話し合う交流活動を円滑にすることができたり、教師が評価する際の大きな手掛かりになったりします。また、自分たちの作品を相互鑑賞するときも、造形的な特徴を手掛かりにすることで、単に「上手」「下手」「好き」「嫌い」などの見方ではなく、形や色などを意識した見方ができるようになってきます。

見つけたもの	A ポイント	B 感じたことや思ったこと
富士山	色・△△△ 形・□□□ よ・◇◇◇ C	富士山の形が□□□で色が△△△なので○○○○○みたいなだ。
波	色・△△△ 形・□□□ よ・◇◇◇	船の様子が◇◇◇で、人が◇◇◇しているので○○○ ○○○のような感じがする。
人	色・△△△ 形・□□□ よ・◇◇◇	波の色が△△△で、形が□□□で、ようすが◇◇◇ なのは、○○○○○○だからだと思う。
船	色・△△△ 形・□□□ よ・◇◇◇	<div style="border: 2px dashed orange; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p><b>D</b></p> <p>2つ以上の ポイントから考え てみよう！</p> </div>

#### 【ワークシートの使い方】

- A 「ポイント」には見つけたものの造形的な特徴(形・色・様子<sup>(※)</sup>)を記入します。ポイントのうち、様子は形や色以外のものです。(※表中の「よ」は様子を示す。)
- B 「感じたことや思ったこと」とは、児童が「ポイント」を基にもったイメージのことです。文章の型の例を電子黒板で提示しました。
- C 矢印を引くことで、どの造形的な特徴を根拠にしたかが分かります。
- D 複数の造形的な特徴を根拠にするように数の目安も知らせます。

#### 資料7 ワークシートの記入の仕方

(イ) 中学校

中学校におけるワークシートの工夫は、次の2点です。

- ① 発想や構想の段階において、主題をもつことに対して苦手とする生徒がいます。生徒が発想や構想の段階で根拠となる考えを整理し、明確にもつことができるように、学習の目標を〔共通事項〕の視点に関連付けて提示しました(資料8)。〔共通事項〕の視点でアイデアの根拠を考えさせたり、構想を練らせたりするために指示の工夫をしました。また、制作や評価等に対して自分の考えを明確にするために、〔共通事項〕の視点で整理させる項目を表記しました。

〔共通事項〕の視点と関連させた学習の目標

第1時 ・伝えたい主題を明確にして、アイデアスケッチを考える。 【発想や構想の能力】

第2時 ・主題を表現するための形や色彩などの工夫を感じ取り、自分の価値意識をもって批評する。 【鑑賞の能力】

実践1  
(第1時)

(3) 話し合った内容を基に、アイデアスケッチをしましょう。

「誰にでも分かる」マークにするためのアイデアスケッチのポイント

- 統一感
  - ・グループで共通する形を使う。
  - ・「自分の街」をイメージする形をマークの枠にする。
  - ・使用する場所を考えて、誰にでも分かるデザインにする。
- 形
  - ・枠の形(グループ)と担当の形(個人)をデザインする。
  - ・デザインするモノの特徴が分かるように単純化や強調をする。  
(美術資料 P58 参照) ※定規やコンパスなどを使用してもよい。  
※色紙で制作するため、線は太く表現する。
- 色彩
  - ・デザインするモノの特徴が分かるように、配色を考える。
  - ・使用する色は、白、黒を含む2色～3色とし、配色の効果を生かす。  
(美術資料 P50～51 参照) ※色鉛筆で配色計画をする。

自分の街のイメージ (グループで考える。)

自慢のもの (個人で考える。)

〔共通事項〕の視点

学習の目標と〔共通事項〕の視点との関連付けを図った指示

実践2  
(第2時)

1 自分のアイデアスケッチについて、形や色彩などの工夫点を紹介しましょう。  
〔紹介例〕 「(担当したもののイメージ(雰囲気)は～で、形は、～、色彩は、～にしました。」

視点	紹介する内容
イメージ	
形	
色彩	

資料8 形や色彩を意識させるワークシート

② 表現活動において、生徒が自分の思いや考えを他者と交流し合うことは、発想や構想をより豊かにすることを目的としています。思いや考えを交流し合うときに、その根拠を明確にして、他者に分かりやすく伝える必要があります。〔共通事項〕の視点で作品を捉えさせるために、他者と同じ視点で考えを交流し合ったり、〔共通事項〕の視点で改善点を図ったりすることができるようにワークシートを作成しました(資料9)。そうすることで、生徒のより良い作品づくりをする意欲へとつなげることが期待できます。

2 よりよいデザインになるように、グループで工夫点や改善点を話し合しましょう。

- ・場所(～の部分、を)、内容(～だからよいと思った、～だから～にしたほうがよい)など具体的に書く。
- ・書いてもらった付箋は、下の表に貼りましょう。

メンバー 氏名		
統一感 (青)		考えの根拠を明確にすることを提示
形 (ピンク)	[共通事項]の視点	
色彩 (黄)		

資料9 形や色彩を意識したワークシート

### ウ 形や色(色彩)を意識した交流活動

平成 20 年 1 月の中央教育審議会答申に挙げられている思考力・判断力・表現力等の育成を図るための学習活動の項目に「⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる」ことが挙げられています。表現活動の発想や構想の段階や鑑賞活動において、他者と意見や考えを交流させることは、児童生徒にとって自分の思いや考えを明確にしたり、違う考えに気付いたりすることになり、より良い作品づくりをすることや作品を幅広く味わうことが期待できます。

#### (ア) 小学校

感じたり考えたりしたことを話し合う場として交流活動を取り入れました。児童には交流活動は、友達がどんなことを感じたり考えたりしたのかを知るためのものであることを伝え、見方や考え方を広げるための交流を目指しました。形や色、様子などを根拠に感じたり考えたりしたことを書いているワークシートを基に交流することで、児童は自信をもって友達に自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりできます。また、自分と違う考えは、違いが分かるように記入するようにしました。

児童は同じものを見ても、感じたり考えたりしたことが違うことに気付き、いろいろな考えを

知ること、それぞれの見方や考え方を広げることにつながります。

交流活動をするに当たっては、児童一人一人が活発に友人と話し合うことができるように「交流の約束」を提示しました(資料 10)。

クラス 35 人の全員ができるだけ多くの友達の考えを知ることができるように、複数の友達と交流することを伝えました。

### 交流の約束

- ① 席をはなれて交流する。
- ② 何人と交流してもよい。
- ③ 友だちの考えを聞いたら、感想を伝える。
- ④ 交流したらネームカードを「交流した」に動かす。
- ⑤ ネームカードが全員「交流した」に動くように交流する。
- ⑥ 新しい発見は、赤でワークシートに書き加える。

おもしろい。よく考えたな。気付かなかった。

赤の書き加えがたくさんあるといいね!

資料 10 交流の約束(電子黒板で提示)

交流したらネームカードを「交流前」から「交流した」に移すことで、学級の全員が交流できるようにしました。

資料 11 ネームカード

(イ) 中学校

表現活動の発想や構想の段階や鑑賞活動において、他者と思いや考えを交流させることは、自分の思いや考えを明確にしたり、多様な価値に気付いたりすることになり、より良い作品づくりをすることや作品を幅広く味わうことが期待できます。

交流活動を効果的に行うためには、思いや考えの根拠を明確にすることが大切です。本研究では、形や色彩を根拠として交流活動を行いました。活動時には、改善する根拠を具体的に示して、意図が相手に伝わるように促しました(資料 12)。また、交流活動により改善したアイデアを可視化し、変容を実感させるために、交流後に再びアイデアスケッチをする場面を設定しました(次頁資料 13)。

### 3 デザインの検討 16分

グループで工夫点や改善点の話し合い

- 統一感
- 形
- 色彩

(「アイデアスケッチのポイント」を参考)

メンバー 氏名	
統一感 (青)	
形 (ピンク)	
色彩 (黄)	

書いてもらった付箋は、ここに貼ろう

そう思う「理由(根拠)」を詳しく書く

資料 12 検討するときの留意点(電子黒板で提示)

3 グループから出た意見を基に、アイデアスケッチを見直し、下描きをしましょう。

**アイデアスケッチ(下描き)のポイント**

- 形
  - ・色紙で制作するので線は太く表現
  - ・下描きの形がそのまま作品の形
  - ※カーボン紙で色紙に転写するので、輪郭線を整える。
- 色彩
  - ・デザインするモノの特徴からイメージ
  - ・「見やすさ」を考えた配色
  - ※対照トーンの配色
  - ※白、黒を含む2色～3色
  - ※「白」は、紙の白を使用

資料 13 交流活動後のアイデアスケッチ(ワークシート)

## エ 学習の振り返りの工夫

振り返りにおいても形や色(色彩)などの〔共通事項〕の視点をもたせることは、児童生徒の見方や考え方を深めるのに有効です。

### (ア) 小学校

授業の最後には、学習のめあてに沿った振り返りの時間を設けました。

児童に何について振り返るかを示すことで、学習したことの定着を図ります。本研究では、必ず、形や色などの〔共通事項〕の視点からの学習の振り返りと交流活動をしての感想を書かせるようにしました。

表 2 学習の振り返りでの児童の主な記述

時	①〔共通事項〕の視点での振り返り	②友達と交流した感想
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色、形、様子から自分のイメージをもつことができた。</li> <li>・色、形、様子から波が大きくてはげしくて、富士山が小さいところから、波が人をおそう手のように見えました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇さんと交流して、波の形や雲の色から空の風がすごいということ、よく考えているなど思った。</li> <li>・ぼくはこれ以上思いつかないと思っていたけど、交流したらそれ以上ありました。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さわやかな感じを出すために緑や黄緑や黄色で、形は丸っぽくどっしりした様子に書いた。少し難しかったけど、黄緑と緑と合わせてさわやかなイメージにできたので良かった。</li> <li>・自分のイメージの山を描く学習はとても頭を使って形や色を考えて描きました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな違うイメージをもっていて、真似してみたいところがたくさんあった。</li> <li>・みんな(色が)うすかったり濃かったりしていました。絵を見て感じたことを話し合えて楽しかったです。</li> </ul>

## (イ) 中学校

本研究では、学習の振り返りを学習目標に合わせて行うように仕組みました。例えば、アイデアスケッチ終了後に自分のアイデアを確認させるために言葉で表現をさせたり、交流活動による作品の改善については、再びアイデアスケッチをさせたりしました(表 3)。学習を振り返ることにより、生徒は学習目標を再確認し、自ら学習の達成度を測り、自己評価をすることが期待できます。

表 3 学習の振り返りでの生徒の主な記述(第 2 時に使用したワークシートより)

評価規準	学習目標 (ワークシートの指示)	〔共通事項〕の視点での振り返り
ピクトグラムの特徴を理解し、形や色彩の効果を生かして、対象を分かりやすく表現している。 【創】	「自分のアイデアスケッチについて、形や色彩などの工夫点を紹介しましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緞通を簡単にして、人も加えて分かりやすくした。[形]</li> <li>・ 赤は、目立つ色で日の丸のような日本らしさ。緑は、木々をイメージして、和む色だから。[色彩]</li> <li>・ 山は、薄いきみどりにし、ミカンが目立つように薄くした。みかんは、一番目立つように派手で濃いオレンジ。[色彩]</li> </ul>
より良い作品になるように相互に改善点を探っている。【鑑】	「より良いデザインになるように、グループで工夫点や改善点を話し合しましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 干し柿と分かりやすいいろにすればすごくよいと思った。[色彩]</li> <li>・ もう少し上を丸くすればよいと思う。[形]</li> <li>・ 人をもう少し小さくして、背景を大きくするとよいと思う。[形]</li> <li>・ 名尾和紙を明るくして、周りを暗くするとよい。[色彩]</li> </ul>
批評を基に、イメージやピクトグラムの視点で作品を改善している。【発】	「グループから出た意見を基に、アイデアスケッチを見直し、下描きをしましょう。」	(アイデアスケッチによる振り返り)
批評後の作品の変容を読み取ろうとしている。【鑑】	「グループの意見を基に、デザインの改善した点や感想について書きましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ デザインをもっと簡略化して、ピクトグラムらしくした。人も入れたのは、分かりやすく緞通を伝えるためである。[形]中を目立つ色にしたいと思う。[色彩]</li> <li>・ 色は明るめの色と暗めの色を使って、岩を表現した。[色彩]</li> </ul>

交流活動を有効に働かせるための学習目標